

## 熊本市立松橋西支援学校(本校) 令和7年度(2025年度)学校評価表

<b>1 学校教育目標</b>
<p>心豊かでたくましい児童生徒の育成</p> <p>○心豊かであるということ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 優しく思いやりがあり、自然や周囲の人を大切にすることができる。</li> <li>・ 自分の好きなことを見つけ、感性豊かに感じ取ったり表現したりできる。</li> <li>・ 友達や教師と積極的にかかわり、気持ちを重ね合わせながら活動できる。</li> </ul> <p>○たくましいということ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自ら健康に気をつけ、体力を高めながら元気に毎日を過ごすことができる。</li> <li>・ 困難さを感じても、自己肯定感を元に挑戦する意欲を持つことができる。</li> <li>・ 自らの生活に目標を持って、積極果敢に取り組むことができる。</li> </ul>

<b>2 本年度の重点目標</b>
<p>○よりよい授業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 育てたい資質・能力を踏まえた年間指導計画の充実(教務部)</li> <li>・ 性に関する教育の検討・充実(保健体育部)</li> <li>・ 児童生徒会活動の充実と、他校や地域社会との交流の推進(生徒指導部)</li> <li>・ 児童生徒の自立と社会参加を目指すキャリア教育の推進(進路指導部)</li> </ul> <p>○よりよい教師</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科別の指導における授業作りの検討及び共有(研究部)</li> <li>・ 児童・生徒のニーズに応じたICT機器活用の推進(情報教育部)</li> </ul> <p>○よりよい学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校内外の行事(文化芸術鑑賞)・諸活動を見渡した円滑な業務の遂行と、他校との連絡調整(総務部)</li> <li>・ 環境保全活動の推進及び防災意識の高揚と防災対応能力の向上(環境安全部)</li> <li>・ 一人一人に寄り添う教育的支援を行うための校内支援の充実(教育支援部)</li> </ul>

<b>3 自己評価総括表</b>						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	時間外勤務時間の縮減を目指した業務改善の実施	・時間外勤務縮減を目標とした計画的な業務の遂行	・主任主事を中心に、各分掌部の会議の在り方(会議時間)を検討し・実践する。	・家庭訪問、個別面談時の短縮日課期間を十分に設定し、職員の業務時間の確保を行う。 ・毎月の衛生委員会時に職員の勤務実態を把握するとともに、該当する職員には積極的な声かけと面談等を実施する。	B	・特定の職員の時間外の勤務が多いことは課題として認識しており、該当する職員には積極的な声かけと面談等を実施した。しかしながら、保護者対応や生徒への特別な指導など、突発的な対応が多く、効果的な時間外勤務の削減まではできていない。 ・一方、児童生徒に向き合うための時間(授業準備・生徒支援についての話し合い・教材づくり)を設定して、毎週金曜に実施した。授業準備や児童生徒について、職員同士が話をする時間が増えて、よかったという意見が職員からあった。
授業の充実	育てたい資質能力を踏まえた年間指導計画の充実	・生活単元学習及び作業学習における指導内容の整理	・整理した指導内容を取り入れた教育課程表及び年間指導計画を作成する。	・指導内容を整理する上で必要となる視点を具体的ににする。	A	・小、中学部においては、各教科や合わせた指導等についての内容・時数バランス等の検討を行い、年間指導計画に反映した。また、交流教育に視点を当てて目標や意義を確認した。高等部においては、作業学習について検討し、そこで整理された「大切にしたいこと」を学部目標に反映させた。分教室においては、インクルーシブな学校運営モデルと

						<p>して、甲佐高校との取組を検証し、次年度につなげると共に、作業学習についても高等部と課題や方向性を共有することができた。次年度は、理科の教科で、各学部間のつながりや系統性を課題として検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学部とも、長期休業中に計画的に教育課程についての意見集約や検討会を実施し、次年度の教育課程編成につなげることができた。</li> </ul>
性に関する教育の検討 ・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手との距離感やプライベートゾーンの指導</li> <li>人との関わり方について、また自分と相手の体を大切にする等の指導、意識向上に関する取組の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学部をとおした性に関する教育の年間指導計画の見直し、作成を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒にとって分かりやすい資料を作成し、保健だよりや(まつけん教室だより)を発行する。学校と家庭で足並みを揃えた指導支援を行う。</li> <li>職員、保護者を対象とした講師招聘研修会(性に関する講演会)を実施する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学部において保健や生活単元学習の中で、生徒にとって分かりやすい資料を作成し、教室掲示など日頃から目にできる環境を整えた。さらに、「まつけんだより」を発行することで、学校と家庭で共通理解を図りながら、指導支援を進めることができた。</li> <li>職員および保護者を対象とした講師招聘による性に関する講演会を実施し、性に関する指導内容や児童生徒への対応の見直しを図るとともに、新たな知識や視点を共有する機会となった。</li> <li>次年度は、男子の児童生徒の性に関する保護者の悩み相談などについて検討をすることと、他人との接し方・距離の取り方について、保体部で教材をまとめて各学部で利用するように進める予定。</li> </ul>	
個に応じた指導の充実につながる実態把握をする力や授業実践力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>実態把握の方法や適切な特性の理解を踏まえた教科別の指導や自立活動の授業づくりの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立活動の学びを生かした教科別の指導の在り方について検討会を各学部で実施する。</li> <li>自立活動の基礎基本研修を実施し、自立活動の指導における専門性の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育・音楽・図工(美術)の各教科でグループを編成し、意見交換型の学部研を実施する。</li> <li>スキルアップ研修と自立活動基礎基本研修を関連させ、代表事例の授業検討会を実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度授業づくりを深めた3教科について、学部内でグループに分かれ、対象児童生徒を設定し、個に焦点を当てた授業づくりに取り組んだ。実態把握や自立活動の学びについての情報共有を行った上で、計画、実施、評価のPDCAサイクルで授業づくりについて深めることができた。最後にグループ間での意見交換会を実施したことで、さらに理解を深めることができた。</li> <li>自立活動基礎基本研修では、特別支援教育経験が、3年未満の職員(その他希望職員も含む)を対象にして、自立活動の基本的な知識習得や自立活動設定シート・教材の作成に関する研修を実施することができた。研修後のアンケート調査では「学びになった」と回答した職員が大半であり、職員に必要な研修であったと考えている。2日間続けた研修だったので、次年度の研修会の持ち方については、検討したい。</li> </ul>	

	児童・生徒の情報や教師の機器の扱い方の推進	・教師のICT機器の使い方と授業や生活場面での実践。	・教師のICT機器の習熟度を把握し、正しい知識や指導方法を学んだ上で、授業等で実践できるようにする。	・教師のICT機器の習熟度を事前アンケートで把握する。習熟度に合わせた3つの研修の中から1つを選択し、校内研修で理解を深める。	A	・事前アンケートで、教員の習熟度を把握し、その結果を踏まえて研修内容を調整したことで、各教員のレベルに応じたスキル向上を図ることができた。 ・一方、情報機器の活用に関しては、教員間で習熟度の差が依然として大きい。今後は定期的・継続的に学ぶ機会を設けたい。 ・また、職員間の情報共有については、オンライン会議を積極的に取り入れるようにしたいが、会議や研修に係る情報機器の準備については、情報教育部以外の職員もできるようになる必要がある。この体制づくりを課題として進めたい。
キャリア教育(進路指導)	児童・生徒の自立と社会参加を目指すキャリア教育の推進	・小中高連続的で系統的なキャリア発達を促す啓発と情報発信	・自立や社会参加に向けて、つけたい力の重点項目を設定し、系統的に育成を図る。 ・保護者の情報ニーズを把握して、それに即した進路だよりを毎月発行する。また、進路コーナーの整備を行う。	・キャリアアップウィークの取組改善と充実を図り、つけたい力の啓発と育成に取り組む。 ・高等部の様子や卒業生の暮らしぶり、進路先や関係機関からの声など内容の充実を図る。	B	・取組の目的や目指す子どもの姿を各学部伝えることができた。取組の様子など、各クラスからのフィードバックも得られた。 ・新しい重点項目として「投票しよう えらんでみよう」を設定し、内容の見直しや改善を行った。 ・アンケートフォームや個別面談などから寄せられた質問に対して、個別または進路だよりを通じて情報提供をすることができた。 ・家庭での「手伝い紹介」や、就労や進路情報のポスター掲示などはできたが、事業所のパンフレットなどを掲示する進路コーナーの整備については、各学部で課題がある。高等部では、資料の最新版への更新を行うことができていない現状がある。次年度は、この点を改善したい。
生徒(生活)指導	児童生徒会活動の充実と、他校や地域社会との交流及び共同学習の推進	・委員会活動内容の充実 ・松橋高校との交流活動の充実	・各学部の委員会活動では、児童生徒がより良い学校を作るための諸活動の計画を立てる。  ・松橋高校との交流では年間の行事の交流内容を検討し、計画、実施を行う。	・委員会活動では、より良い学校生活の充実と向上を目指した委員会を設定し、児童生徒が主体的に取り組むことができるようにする。  ・松橋高校との交流では生徒会を中心に定期的に交流を行い、互いの交流が深まる参加方法について検討し実施する。	A	高等部の委員会活動を年5回行うことができた。各委員会で活動を計画したことで、昼の放送や、給食エプロンの洗濯など、生徒自ら率先して行う姿が見られた。また生徒会、学級委員会では、他の支援学校とのリモート交流で、互いの学校について知る経験ができた。 ・松橋高校との交流では、年間5回の交流を行うことができた。松高スポーツフェスタ(体育祭)、松高フェスタ(文化祭)では参加の方法を昨年ものから変更し、より近い距離での交流活動を行い、充実を図ることができた。

人権教育の推進	命を大切に する心を育 む指導の実 践	・職員研修と 人権学習の 充実	・職員研修・人 権学習を計 画的に実施し、 人権感覚を高 める。 ・年間計画を立 て、各学部 において実施す る。	・人権に関する内 容について職員 研修を年6回 行い人権学習の充 実につなげる。 ・「命を大切にす る心を育む指導」と ともに、人権につ いて各学部で情 報共有し、啓発と 対策を行う。	A	・職員研修は年6回実施した。他 学部の職員と交流する研修を設 け、情報共有や自身の振り返り を行った。外部講師による講話 での研修を実施し、子どもの自 尊感情を育てるためにどうしたら よいか、子どもとの関わり方等を 考えることができた。 ・各学部で人権学習の授業を計 画的に行うことで、自他の気持ち や行動を考え、他者の気持ちを 大切にすることを指導できた。 ・次年度に向けても、引き続き職 員の人権感覚を意識づけるため に、今年度同様の研修を実施す る予定。
いじめの 防止等	いじめの未 然防止・早 期発見・対 策等におけ る取組の充 実	・いじめ防止 の取り組み の情報発信 ・校内支援委 員会及び関 係機関との 連携の構築	・各校舎に情報 集約担当者を 配置し、いじ めと思われる 情報を集約し た後の関係機 関との連携方 法・対応につ いて整理及び 職員への周 知を行う。 ・迅速な実態把 握と職員への 周知など、組 織的対応がで きる体制を整 える。	・いじめ防止研修 にて、初期対応 等を職員に周知 し、さらに、情報 集約担当者を中 心に校内支援委 員会と共有して、 早期発見、早期 対応に取り組め るようにする。  ・対応マニュアル の改善、見直し を行う。	B	・心のアンケートや情報集約担当 者が把握したいじめに関する案 件では、対応マニュアルに沿っ て、いじめに該当するか、いじ めを前提として認知するかを、 初期対応にて判断し、迅速に対 応することができた。また、いじ めに該当するか、いじめを前提 として認知するかの違いで、誰 がどのように児童生徒や保護者 へ対応するか、担任・学部主事 ・管理職と連携しながら取り組 むことができた。 ・対応マニュアルの改善、見直し については、今年度の取組を基 本の流れとして、今年度及び次 年度の取組を検証し、必要な 場合に見直す予定。
地域 支援	地域の幼・ 保、小中高 等学校にお ける困り感 のある児童 生徒への支 援体制整備	・地域の学校 等のニーズ に対する専 門的見地か らの指導・ 支援 ・校内支援体 制整備 ・福祉、行政 、医療等の 各機関との 連携推進	・巡回相談で課 題を共有し具 体的方策を検 討する。 ・コーディネ ーターを中心 とした校内支 援体制整備を 推進する。 ・福祉・行政等 の各機関との 連携を図り、 多方面の見 守りや、ア プローチを進 める。	・ニーズに沿った 的確な情報提 供、具体的方 策の提案を行 う。 ・校内の支援体 制を構築し、各 機関と連携を 図りながら、 指導をアップ デートする取 組を進める。 ・多角的に幼児 児童生徒の状 況を捉えるた めの関係機関 を含めた巡回 やケース会議 の充実を図る。	A	・各学校のコーディネーター、教育 委員会との関係づくりが密にな り巡回相談が活発に活用された。 ・校内の支援についてはコアティ ャーを設定し、指導充実のた めの方策を検討したい。 ・SSWやSCとの情報共有を行い 各機関との連携を図った支援網 が整備されつつある。ケース会 議も積極的に行われ、スピー ディに情報共有を行なうことが できている。 ・次年度の課題は、就学に向けた 取組と考えている。より細かな 巡回相談・情報共有で、教育支 援委員会への参加を積極的に働 きかけることができるように活 動したい。
	人権教育の 視点で、一 人一人に寄 り添う教育 的支援を行	・児童生徒の 障がいや特 性、課題の 背景を理解 し、個々に 応じた適切	・課題共有、情 報整理を行い 、一人一人の 課題に応じた 校内の役割 分担を明らか	・早急な課題共有 やケース会議を 実施する。必要 に応じ、校内支 援委員会、関係 機関と連携し、 具体的実	A	・校内支援委員会を定期的に実施 し、校内支援に関する全体像を 把握することができた。ケース に応じて、児童生徒の個々の 状況を把握したり、問題の背 景を考えたりしながら、その 後の動きに繋

	うための校内支援の充実	な指導・支援を行うための校内支援体制の整備	にし、必要な指導実践の充実を図る。	践につなげる。		げることができた。必要に応じ、他の分掌部や外部専門機関等と連携して取り組むことができた。 ・SCとの連携においては、職員との座談会を設定するなど、職員が相談しやすい環境づくりを行うことができた。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	学校運営協議会(総合型)における協力体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部移転後の松橋高校との連携と相互理解の推進</li> <li>・地域に関わった学校づくりの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に月行事や週時程のすり合わせを行い、連携を行う。</li> <li>・交流では、互いの生徒の意見を聞き、生徒の主体的な交流を目指し、生徒及び職員の相互理解を深める。</li> <li>・各校舎の地域連携行事等を地域へ発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回定例の両校打ち合わせに加え、生徒会同士の交流を行い、スポーツフェスタへの参加の在り方について両校で検討・実践する。</li> <li>・地域住民や近隣区内への計画的な情報周知等を行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松橋高校と定期的に打ち合わせを行い、年間を通じて行事の調整や生徒会の交流、体育祭・文化祭での交流活動を進めることができた。</li> <li>・特に、松高フェスタ(文化祭)では、松西の生徒がステージに立ってソーラン節のダンス発表を行ったり、体育館で、松橋高校の販売実習と一緒に、本校高等部の販売実習を行ったりすることができた。昨年より交流の活動内容が深まった。生徒同士も互いに気になるようで、休み時間などに話をしている場面も見られるようになった。</li> <li>・これらの交流等の活動については、地域住民にまでは広報できていない。販売会などの際に広報を行い、もっと地域の方に知ってもらう機会をつくるのが今後の課題である。</li> </ul>
	環境保全活動の推進及び防災意識の高揚と防災対応能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で安心な環境づくり</li> <li>・災害時等における安全対策の検討と安全対策マニュアルの見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全点検の確実な実施と点検結果へ迅速な対応を行う。</li> <li>・ヒヤリハットを報告することにより、職員の危機管理意識を高める。</li> <li>・職員研修を実施し、職員の防災意識や災害対応能力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校舎共通したQRコードを用いて安全点検を行い、情報の集約や対応の迅速化を図る。</li> <li>・ヒヤリハット週間を毎月1日～7日までに固定し、職員の意識が高まるようにする。</li> <li>・前年度末に見直した安全対策マニュアルを使い、年度初めの職員研修を実施することで、職員の防災意識や災害対応能力を高める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・QRコードを用いて全校舎共通の安全点検表を作成したことで、安全点検の結果を速やかに集計し、改善につなげることができた。</li> <li>・7月までは、毎月1日～7日をヒヤリハット週間として実施したものの、周知のタイミングが遅れていた。2学期からはQRコードを用いて、事案発生後にすぐに入力して、職員へ周知できる方法へ変更した。このため速やかな情報共有につながった。</li> <li>・学年始休業中に安全対策マニュアルを用いた職員研修及び職員のための避難訓練を実施し、職員の安全対策に対する意識向上を図るとともに、児童生徒の受け入れ準備を整えた。また、宇城市防災消防課及び近隣県立学校との大規模災害を想定した避難所運営についても協議・見直しをし、現在のそれぞれの学校の状況に応じたマニュアルに変更することができた。</li> </ul>

#### 4 学校関係者評価

- ・ 小中学校との交流も活発に行われている。高等部と松橋高校との交流については、毎年少しずつ進んでいる事を理解できた。評価についてBとしてあったが、A評価でよいと考える。
- ・ 松橋高校と松橋西支援学校の月に一度の連絡会議はともうまくいっている。年度が変わると職員も変わるので、このシステムをしっかり残すべきと考える。
- ・ 今後の地域との交流の形をどうつくるか、どのような交流の方法があるか考えていきたい。
- ・ アンケート(職員)の結果から、職員の学習の充実に対する自己評価が低いようである。また地域への情報発信がもう少し求められている。工夫やよい取組はできているが、うまく伝わっていないと感じる。

#### 5 総合評価

- ・ 他の学校との交流学习については、今後も継続して進めることで、少しずつ深めるように努めたい。
- ・ 地域との交流については、ここ数年ロードクリーンの取組を行ってきたものの、地域の住民の年齢層や参加状況を考えても、新しい段階に進める必要がある。
- ・ 職員の学習支援に対する自己評価が低いことについては、課題と考える。教材作成や自立活動についての研修等を実施しているので継続したい。

#### 6 次年度への課題・改善方策

- ・ 交流学习については、今年度行ってきた一つ一つの交流を大事にしながら、深めていくようにしたい。生徒の交流だけでなく、職員の交流、可能であればPTA 同士の交流についても考えたい。
- ・ 学校の取組を地域へ情報発信することや、地域の方々との交流の手段については、これまでの交流方法(ロードクリーン)だけでなく、新たな方法についても既に検討をすすめている。
- ・ 地区で行われている総会等で、本校のことを紹介する場面を設け、本校の現状や、どのような子どもたちが学んでいるのかなどを改めて発信する予定。
- ・ 職員の学習支援に対する自己評価が低いことについては、研修だけでなく、今年度から導入した「児童生徒のことを考える時間」を利用しながら、授業のことや、子どもたちの様子について職員同士で話をする場面をつくり、職員が安心して学習指導を行うことができるように環境を整えたい。